



2018年9月21日(金)～10月8日(月)まで、法制化後に労働者協同組合による起業とその環境条件を調査し、社会的経済及び連帯経済を日本でどのように推進するのかを深めるためにスペインを訪問した。訪問団のコーディネーターには2011年からスペインに渡り『社会的連帯経済入門』の本を書いているバレンシア大学の博士課程を修了した廣田裕之さん、そして3ヶ月間、研究休暇のためにバルセロナ大学に海外派遣研究で赴任していた日本大学の高橋巖さん、そして協同総研特別顧問の岡安喜三郎さんと私であった。

訪問先は、連帯経済及び社会的経済の連帯ネットワーク組織、研究所、労働者協同組合を中心とした協同組合、財団、アソシエーションの実践者、行政と連携して起業支援をしている公営企業であった。またGSEF(Global Social Economy Forum 2018 ビルバオ大会)にも参加し、パクウォンスンソウル市長との懇談や、Ariel Guarco国際協同組合連盟(ICA)会長、ILO(国際労働機関)のSimel Esim協同組合ユニット長、CECOPの理事長で、2016年のナポリで開催された社会的協同組合スクール2016を主催したGiuseppe Gueriniさんとも挨拶ができた。訪問した州は17州のうちの7州になり、都市として10カ所(マドリード、コルドバ、セビーニャ、バレンシア、バ

ルセロナ、ジローナ、ビルバオ、アラサテ、サンタンデル、トレド)、訪問現場は、22カ所(マドリード連帯経済見本市、CAOTICA、アンダルシア労働者協同組合連合会(FAECTA)、IDEAS、La Tejedora、AEIOLUS、IUDESCOOP、Som Alimentació、ロカガレス財団、Abacus、カタルーニャ総合協同組合〈CIC〉、Barcelona Activa、社会的包摂企業Formació i Treball、サンツ協同組合ツアー、La Fageda、Som Energia、GSEF、Mondragon Cooperation、AMICA〈3カ所〉、CEPES、COCETA、reas)にも及んだ。

公式訪問以外にも、多くの初体験があった。バルセロナの地下鉄内で財布(ユーロ紙幣とクレジットカード2枚)が盗まれ、バルセロナ警察とカード会社2社にカード使用中止の手続きをとったこと。また左ハンドル、右側通行のなかでレンタカーを借りて運転したこと。日本からフィンランドのヘルシンキを経由してマドリードに向かったところ、機材トラブルのために、5時間近く成田空港でダイヤが乱れ、ヘルシンキで一泊した挙げ句、ヘルシンキからローマを経由して、1日遅れでマドリードに到着したこと。空港で荷物が出てこなくなりそうになったこと(ロストバゲッジ)。何度か海外には行っているが、これだけのことを一気に経験をしたことは初めてのことであっ

た。またバルセロナのサンツ地区で空き家を占拠して、5年前にバルを開店した労働者協同組合(KOP DE MA)や同地区でオルタナティブな社会・経済の本を扱い、サンツ協同組合ツアーの主催者の労働者協同組合(LACIUTAT INVISIBLE COOP)では、社会的経済に関わる本が多く配本されていた。サンツ地区には半径2km²に協同組合が50以上あり、そこが有機的につながり、地区が協同組合だらけで、連帯経済とはこういうことかと肌見で感じる機会になった。さらにカタルーニャ州の独立に関わるデモに遭遇したりと、公式訪問と同じくらい刺激的な経験であった。

廣田さんいわく「日本のなかでよくモンドラゴン知られているが、スペインでは他の地域でも多くの労働者協同組合や、連帯経済を推進する団体が活発に活動している」との話をしてきた。確かにCOCETA(スペイン労働者協同組合連合会)の資料によると、2017年度現在で、20,958の協同組合があり、2017年だけで1,275団体が立ち上がっている。20,000以上の協同組合のうち、労働者協同組合は17,150団体、農協は3,264団体、教育協同組合は504団体(労働者協同組合形態を含む)、生協は176団体とのこと。労働者協同組合が新しく協同組合をつくる際に牽引する役割を担うとともに、各地域(州・都市)で風土・歴史・自然も違うなかで、人間性を中心とするオルタナ

ティブな社会・経済を力強くつくっていることを実感した。法制度も全国法とともに、特に実践においては、各州法に基づき運営をしている。その意味でも全国連帯とともに、各地域での協同組合の設立や運営支援の仕組みやネットワークづくりが必要であると感じた。

スペインの訪問を通じて、「連帯経済」「社会的経済」とは何かをはっきりと理解することができた。特に連帯経済は「地域とのつながり」「当事者運動」「社会変革」の視点を強く感じた。そしてワーカーズコープは社会的経済の組織でありながらも、連帯経済を目指す運動・事業であると感じた。「社会的連帯経済」とこの間日本でも言われているが、「社会的経済及び連帯経済」の概念が日本には広がっていないように思われる。国によって概念が違うので、日本ではどのような概念を持つのかの議論が必要である。それとともに法制化後に労働者協同組合を設立する動きを加速していきたい。スペインとのつながりでは、ロカガレス財団発行の月刊誌と協同の叢見誌を所報交換し、日本とスペインの協同組合の現状について、相互の冊子に掲載する話をしている。また11月17日の2018年度第2回協同総研研究会で、訪問で時間を共にした高橋巖さんと共に、スペインの訪問内容について報告する。奮ってご参加ください。

研究所活動日誌 (2018.9.16~10.15)

9月

- 18日(火) 第7回ワーカーズコープ設立・運営
ハンドブック準備会、全国名人・達人
サミット実行委員会
- 20日(木) 労協連法制化推進会議、首都圏若者
サポートネット打合せ(池本修悟さん)
- 9月21日(金)~
10月8日(月) スペイン研究・調査(高橋巖さん、
廣田裕之さん、岡安顧問、相良)
- 25日(火) 第3回ふくろう社会連帯カレッジ
(白井聡さん)
- 25-28日(火-金) 世田谷サポートステーションジョブ
トレーニング受入れ
- 29日(土) 社会連帯フォーラム 保坂展人さん
×金満里さん

10月

- 2日(火) 労協連合同5役会議
- 3日(水) 全国協同集会 in 神奈川(仮称)準備会
- 4日(木) 労協連理事会、首都圏若者サポート
ネットシンポジウム「社会的養護から
巣立った若者を応援する」、国際労働
問題シンポジウム「持続可能な開発
目標(SDGs)とディーセントワーク」
- 5日(金) 日本社会連帯機構理事会
- 5-6日(金-土) 第3回全国名人・達人サミット(山
梨県西桂町)
- 8日(月) JYCフォーラム 第1回 よい働き
方研究会
- 11日(木) 東京基督教大学寄附講座打合せ
- 12日(金) 第2回川崎平右衛門研究会
- 15日(月) 第7回労協連本部シンポジオン

今後の活動予定 (2018.10.16~11.30)

10月

- 16日(火) 協同総研事務局会議
- 18日(木) 社会的企業研究会100回記念冊子
編集委員会、第4回循環型経済・金
融研究プロジェクト会議
- 19-20日(金-土) センター事業団新所長研修
- 22日(月) 立教大学「コミュニティをデザインす
る」(志波早苗さん)講義に出講(相良)
- 24日(水) 第4回ふくろう社会連帯カレッジ
(辻信一さん)
- 25日(木) センター事業団 本部長・事務局長
会議
- 27日(土) 千葉商科大学の環境担当の方と懇談
(BDF関係で)

11月

- 1日(木) 第7回ワーカーズコープ立ち上げ・
運営ハンドブック、中間的就労研究会
- 2-3日(金-土) 全国代表者会議
- 6日(火) 労協連合同5役会議
- 8日(木) 2018年度第1回協同の発見誌編集
委員会
- 9日(金) 日本社会連帯機構理事会
- 14日(水) 協同組合関係研究所 会議
- 15日(木) 全国協同集会 in 神奈川(仮称)第1
回実行委員会
- 17日(土) 第3回協同総研理事会、第2回協同
総研研究会

2018年度 協同総研理事会予定

第3回11/17、第4回3/16、第5回理事会5/18 第7回総会 2019年6月29日(土)